

Code Orange

—Save Life—

	代表者		久松 健人 (医学 B4 年)		
構成員	永久 成一 (医学 B6 年)	佐村 美穂 (医学 B6 年)	浜辺 龍太郎 (医学 B6 年)		
	河生 多佳雄 (医学 B6 年)	矢田 祥子 (医学 B6 年)	西田 彩華 (医学 B6 年)		
	上野 真帆 (医学 B5 年)	木村 剛 (医学 B5 年)	佐伯 晋吾 (医学 B5 年)		
	坪根 咲里依 (医学 B5 年)	戸川 文子 (医学 B5 年)	仲野 優 (医学 B5 年)		
	宮崎 由依 (医学 B5 年)	鈴木 潤一 (医学 B5 年)	遠山 直弥 (医学 B5 年)		
	木本 義敬 (医学 B5 年)	小林 諭史 (医学 B5 年)	佐藤 菜緒 (医学 B4 年)		
	飛田野 篤 (医学 B4 年)	吉村 知佳子 (医学 B4 年)	薬師寺 真生 (医学 B4 年)		
	板坂 美里 (医学 B4 年)	緒方 静 (医学 B4 年)	久保 直登 (医学 B4 年)		
	川口 晃 (医学 B4 年)	下栗 佳那美 (医学 B4 年)	當間 優生 (医学 B4 年)		
	渋谷 渚 (医学 B4 年)	山中 雄城 (医学 B4 年)	酒匂 優嘉 (医学 B4 年)		
	土肥 聖未 (医学 B4 年)	金谷 妃呂子 (医学 B4 年)	星澤 早紀 (医学 B4 年)		
	山元 かなえ (医学 B4 年)	高越 寛之 (医学 B3 年)	上田 誠也 (医学 B3 年)		
	加藤 幸多 (医学 B3 年)	植村 愛子 (医学 B3 年)	岡本 菜奈 (医学 B3 年)		
	倉田 こなつ (医学 B3 年)	荻田 雅子 (医学 B3 年)	馬場 悠花里 (医学 B3 年)		
	井上 郁香 (医学 B3 年)	上田 大貴 (医学 B3 年)	片山 尚子 (医学 B3 年)		
	松元 耶子 (医学 B3 年)	村岡 晴範 (医学 B3 年)	吉川 友沙 (医学 B3 年)		
	清山 遥加 (医学 B3 年)	石田 眞子 (医学 B2 年)	玉那覇 育子 (医学 B2 年)		
	津田 貴子 (医学 B2 年)	藤原 麗 (医学 B2 年)	荒谷 友香 (医学 B2 年)		
	猪狩 真由 (医学 B2 年)	魚谷 若葉 (医学 B2 年)	衛藤 麻里子 (医学 B2 年)		
	岡田 伊代 (医学 B2 年)	倉重 理歩 (医学 B2 年)	細田 優海香 (医学 B2 年)		
	竹内 優佳 (医学 B2 年)	津田 詩織 (医学 B2 年)	中尾 弥里 (医学 B2 年)		
	西原 晴菜 (医学 B2 年)				

1. 2016 年度を振り返って

2016 年度上半期は以前より行ってきた活動に加え、新たなイベントへも挑戦し、新たに加入したメンバーと共に、日々切磋琢磨しながら BLS の普及活動に励むことができた。

今期は「START LINE」をテーマに掲げ、①メンバー教育の充実②地域に根ざした活動を行うことに重点を置いて活動している。①のメンバー教育の充実に関しては、定例会や各イベント前の練習会や第 2 回全国医学生 CPR 選手権大会中四国大会での CPR の質の評価などで一定の成果があるものと考えられるが、全構成員がイベントに参加できているとは限らず、原則全員が参加することとなっている医学祭で、どこまでメンバーのレベルを高めていけるかが鍵であった。これについては、本年度備品として購入した CPR を客観的に評価できるツールを有効活用することができたと考えている。②の地域に根ざした活動については、毎年の活動である七夕祭に加え、山口市でのイベントのボランティアなどを行い、例年以上に地域に貢献できる活動を行うことができたと考えている。また、医学祭や宇部駅伝ボランティアなどの活動が予定されており、そこでも積極的に地域に密着した活動を行うことができた。

2. 2016 年度の主な活動内容

- 1) 組織運営の引き継ぎ
- 2) 新規メンバーの募集活動、茶話会
- 3) ツール・ド・山口湾 2016 での救護ボランティア
- 4) 部活動講習会

- 5) 七夕祭での BLS 講習会
- 6) 第 2 回全国医学生 CPR 選手権大会中四国大会
- 7) ホームカミングデーでのブース展示・講習会
- 8) 医学祭での市民のための心肺蘇生法講座開催
- 9) 山口大学病院職員対象の BLS 講習会
- 10) FM きららカップ宇部駅伝競走大会での救護ボランティア
- 11) その他定期活動

3. Code Orange 内での活動

3.1 組織運営の引き継ぎ

本年度も昨年度からの体制を引き継ぎ、プロジェクト毎にプロジェクトリーダー（以下、PL）を設定し、その PL が中心となってプロジェクトを行っていった。PL は 1 つのプロジェクトにつき 2～3 人設定することで、一人ひとりの負担を少なくできる上、幹部メンバー全員が PL を経験することができ、幹部メンバーとしての自覚も高まると考えられる。また、本年度よりサークル内の業務に関して委員会制度を設けることで細分化し、それぞれの委員に複数名を充てることにより、各個人に合わせて活動に参加できるようなシステムを作った。

3.2 定例会・定練会

Code Orange では週に 1 度、昼休みの約 20 分間を使って、メンバー内での学習会を行っている。上半期は、新メンバーが加わったということで、成人 BLS、小児・乳児 BLS を中心に、基本となる内容の講義・実技を行った。そのほか、各イベントの報告・反省を行い、より良い講習会を作り上げるためにはどうすればいいのか、受講者アンケートの結果をもとに話し合った。

4. 医学部内での活動

4.1 部活動講習会

昨年度同様、本年度も医学部学務課からの依頼に基づき、学生自治会と共同で、医学部学生を対象に BLS を行った。今年度は受講者 55 名に対し、17 名の構成員が講習を行った。昨年度と同様に本年度も構成員が多い部活からは 5 名、少ない部活からは 1 名とするなどして、なるべく多くの 2 年生に参加してもらえるような工夫を行った。4 月に新しく加入したメンバーもインストラクターとして多数参加し、練習会で身に付けた知識や経験を存分に発揮した。受講者のほとんどが BLS を行うのが初めてであり、この講習会を通して医学教育に貢献することができた。



写真 1 部活動講習会参加メンバー集合写真

4.2 頌徳碑清掃

Code Orange では、サークル設立当初から月に 1 回頌徳碑の清掃活動を行っている。頌徳碑とは医学生の解剖学実習に対し、御献体して下さった方々の御遺骨が収められている場であり、医学生として、その方々への感謝

の意を忘れてはならない、という思いからこのような活動を行っている。本年度も引き続き毎月1度、清掃活動を行い、常に医学生としての自覚を持ち続けるようにした。



写真2 頌徳碑掃除後の集合写真

4.3 山口大学病院職員対象のBLS講習会

1月～2月に山口大学附属病院で行われた、医師・看護師を除く総勢300人超の職員を対象としたBLS講習会に講師として参加した。この講習会は今年で3年目を迎えた。患者の急変に出くわす可能性があるのは、医師・看護師以外の職員にもあり、その場合には迅速な対応が求められるということで、年々講習会の規模が大きくなっている。病院で従事する方々への講習も任せられるようになり、Code Orangeの活動が評価されていると実感するとともに、責任の重さを感じた。他人に教えるための準備を今後もしっかりとしたうえで、多くの人に講習を行っていきたいと思う。

5. 医学部外での活動、及び市民に向けた活動

5.1 ツール・ド・山口湾 2015

昨年度に引き続き参加したイベントで、山口市阿知須で開催されたツール・ド・山口湾 2016に救護ボランティアとして参加した。大会開始前にコースを周回するスタッフの方に講習会を開催したり、参加者がけがをした時や、緊急のときのためにAED救護班として待機したり、一般の方向けの講習会を開いたりという盛りだくさんの内容であった。開会式の際にはBLS講習会の実施についてアピールをさせてもらうなど、市民の方との交流会を増やすことができ、BLSの重要性を発信できたことは非常に良い機会となった。昨年に引き続き、山口市でも活動を行うことができたこと、依頼をいただけたことは、Code Orangeの知名度や信頼度が向上していると実感できた。



写真3 BLS講習会会場での集合写真

5.2 七夕祭

本年度も一般市民を対象とした BLS 講習会と、BLS の基礎知識に関するクイズコーナーを設置した。小さな子供から年配の方まで幅広い年代の方々に対して講習を行った。新メンバーを中心としたメンバーで講習会を運営して行ったことにより、経験を積むこともでき、Code Orange にとって得られるものが多かった。



写真4 BLS 講習の様子

5.3 第2回全国医学生 CPR 選手権大会中四国大会

本年度の新しいイベントの1つとして参加したもので、日本臨床救急医学会とレールダルメディカルジャパン共催で開催される、質の高い CPR を啓蒙するためのイベントである。5 人 1 チームで幾つかの競技に分かれて CPR を行い、審査員のジャッジを受けた。自分たちの行った CPR が客観的に評価され、どこができていて、どこができていない部分なのかを再発見できる良い機会となった。また、本年度購入した評価ツールの今後の活用の仕方についても明確なビジョンとして持つことができた。

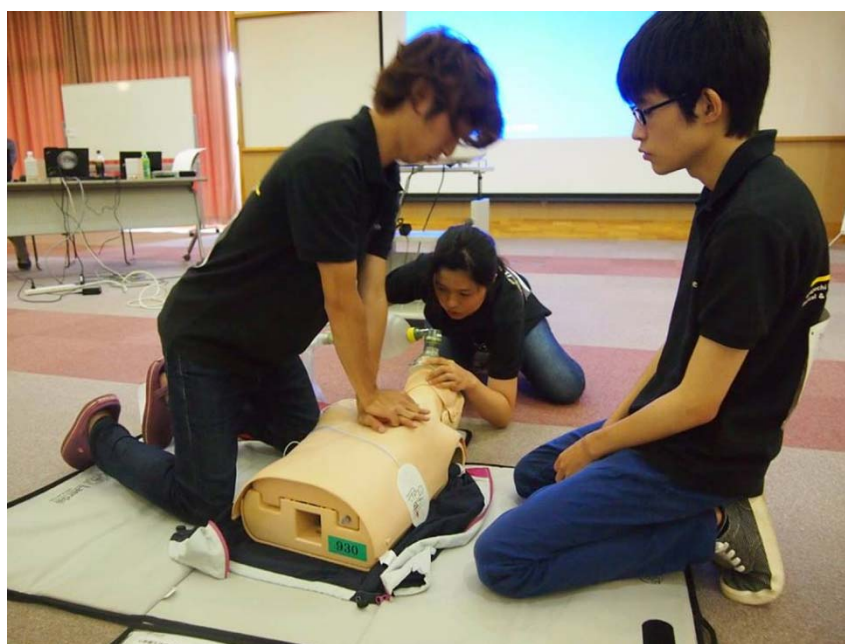


写真5 CPR 選手権大会にて手技を行う参加メンバー

5.4 ホームカミングデーでのブース展示・講習会

10月29日には、「山口大学おもしろプロジェクト 20 周年記念式典」と併せて開催された「第4回山口大学ホームカミングデー」に医学部企画として出展し、来場者の方に向けて BLS 講習会を開催した。



写真6 ホームカミングデーにて AED 使用法を指導する場面

5.5 医学祭での市民のための心肺蘇生法講座開催

11月5、6日の2日間にかけて医学祭で市民のための心肺蘇生講座を開催した。医学祭は Code Orange にとって最も重要視している行事であり、毎年多くの市民の方々に受講していただいている。今年度は149名の方に受講していただいた。この医学祭に向け、1ヶ月前から放課後にメンバー同士で練習を行い、技術の向上に努めた。その甲斐もあって当日は、学生やカップル、親子連れやお年寄りまで幅広い方に対して、各々のニーズに合わせた講習を行うことができた。また、昨年度の反省を生かした結果、受講者アンケートの満足度や理解度の改善が得られた。受講した方の声の中に「もっとこの活動をPRしてBLSを広げてほしい」とあり、もっと団体としてのPRを強化していかなければならないと痛感した。11月24日には医学祭の振り返りを行い、来年度に向けて継続していく点や改善するべき点を話し合う場を設けた。来年度は今年度の反省を活かしてより良い医学祭にしたいと思う。



写真7 医学祭参加メンバー全体集合写真

5.6 FM きららカップ宇部駅伝競走大会での救護ボランティア

2月5日に開催されたFM きららカップ第34回宇部駅伝競走大会にて、救護ボランティアとして参加した。このボランティアは毎年宇部市体育協会から依頼を受け、自転車救急隊として参加している。AEDと救急セットを背負い自転車でコースを周回して、選手のけがや万が一に備えた。また、本部の救護所で救急班として待機し、選手のサポート等を行った。今年は大きなけがをする選手もおらず、無事大会を終えることができた。また、本部に併設されたテント内で、市民に向けて救命講習を行った。駅伝に参加した選手やその保護者の方が講習会に参加した。Code Orangeの活動が地域の方に求められているということを実感できた。



写真8 宇部駅伝参加メンバー全体集合写真

6. 総括

今年度は、Code Orangeとして変革を求められた1年であった。基準となるBLSのガイドラインの改定に対応した講習会を開催、普及活動を行っていくために、メンバー内での勉強会や先生方との意見交換など目に見えない部分での活動を要求されることが多かった。また、各々の手技を客観的に評価できるツールを購入し、それを用いた練習を取り入れたことで、各々の手技をレベルアップさせることができた。これらの地道な活動を重ねたことで、今年度のテーマとして掲げてきた「START LINE」はこの1年を通し達成できたのではないと言える。

Code Orangeの活動の成果というのは、目に見える結果として判断することは難しい。しかし市民による心肺蘇生法の実施は、心停止傷病者の社会復帰において大きな役割を果たすことがわかっている。日本における心臓突然死は年間5万人と言われる中、私たちは少しでも助かる可能性のある命を救いたいと思っている。今後もCode Orangeの活動を通して少しでも多くの市民に心肺蘇生法を広め、それが山口県内の救命率の向上につながることを切に願っている。